

(様式第4号)

塩田地域協議会 会議概要

1	審議会名	第12回 塩田地域協議会
2	日時	平成22年3月18日 午後1時から午後4時40分まで
3	会場	上田市塩田公民館2階ホール
4	出席者	大口会長、峯村副会長、上沢委員、池田委員、岡村委員、小山委員、佐藤委員、関田委員、武田委員、勅使川原委員、中村委員、平林委員、丸山委員、水無瀬委員、南委員、宮入委員、宮沢委員、山極委員、若林(陽)委員
5	市側出席者	神林塩田地域自治センター長、古川センター長補佐
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	1人
	記者	0人
8	会議概要作成年月日	平成22年3月26日

協議事項等

1 開 会 (神林自治センター長)

2 あいさつ (大口会長)

本日は、今期最後の協議会である。今期は、札所めぐりの実施や別所線電車存続に関する住民アンケート調査を実施した。アンケート結果は、今後の活動に活かしていきたい。全国ため池百選についても、投票が終了したが今後の発展に役立たせたい。わがまち魅力アップ応援事業の審査は、まちづくりに影響するので慎重な審査をお願いしたい。

3 協議

(1) わがまち魅力アップ応援事業審査 (事務局)

審査結果

- ・ 採択 2件
- ・ 条件付採択 1件
- ・ 不採択 2件

(2) 別所線電車存続に関する住民アンケート結果 (中間報告) について (アンケート調査委員会)

ア 回答者の住所割合について

- ・ 東塩田約29%、中塩田約47%、西塩田約17%、別所温泉約7%である。

イ 回答者の家族構成について

- ・ 1人約8%、2人約29%、3人約20%、4人約21%、5人約14%、6人以上約8%である。

ウ 回答者の年齢構成について

- ・ 10代20代とも約1%、30代約9%、40代約15%、50代約22%、60代約26%、70代約19%、80歳以上約7%である。

エ 回答者の職業について

- ・ 会社員約27%、公務員約3%、自営業約10%、農業約13%、パート・アルバイト約10%、専業主婦約10%、学生約1%、無職約25%、その他約1%である。

オ 利用状況について

- ・ ほぼ毎日約12%、週に2~3回約3%、月に1~3回約14%、年に数回約43%、利用しない約28%であった。
- ・ ほぼ毎日~月に数回は、全体の約30%。年に数回~利用していないは、全体の約70%。利用していない人は、全体の約30%。
- ・ 利用していない理由は、地理的条件や身体的理由が多く、自家用車利用に傾いている。

- ・ 主な乗車駅は下之郷、中塩田及び塩田町で全体の約 51%が利用している。
- ・ パーク&ライドの利用者は、大学前が約 13%、中野と舞田で約 16%となっている。

カ 利用目的について

- ・ 通勤約 7%、通学約 10%、通院約 7%、買い物約 16%、会議約 6%、飲み会約 37%、その他約 17%である。
- ・ JR やしなの鉄道への乗換えが最も多い。

キ 利用理由について

- ・ 安全だから約 18%、定刻運行約 29%、駐車場不要約 22%、移動が容易約 4%、他に交通手段がない約 16%、自家用車がない約 4%、その他約 7%である。
- ・ 安全性や利便性を挙げた回答が圧倒的に多い。
- ・ 飲酒運転防止は当然のこととして、電車の存続を願うためとか社則や CO2 の削減のためのような住民の心がけを示す回答も見られた。

ク 存続対策について

- ・ JR やしなの鉄道との接続改善約 23%、運賃値下げ約 25%、パーク&ライド施設の増設約 10%、定期券の割引率上昇約 8%、自治会や協力支援団体の行事開催約 10%、家庭での積極的な割引回数券の購入約 7%、家庭や自治会で負担金を拠出する約 6%、任意に協力金を募る約 6%、その他約 5%であった。
- ・ 会社側で考慮すべきものとして、JR やしなの鉄道との接続改善（約 23%）、運賃値下げ（約 25%）、パーク&ライド施設の増設（約 10%）、定期券の割引率上昇（約 8%）である。
- ・ 住民側で考慮すべきものとして、自治会のより積極的な働きかけや行事の開催及び回数券の購入など（約 17%）
- ・ 各家庭や自治会での負担金拠出（約 12%）の意見も出ている。

ケ 自由意見について

- ・ 会社側への改善、要望や提言などが多い。
- ・ 住民も「乗って残す」運動に協力して、貴重ですばらしい景観や遺産を守ろうとする心構えの意見が多い。
- ・ 学生や高齢者のためにも存続を願う要望が伺える。

（質疑応答）

（委員） 自治会や個人での負担金拠出については、別途アンケートをする必要があると思う。このアンケートでは、真意をつかんでいないと思う。別にアンケートを取ればもっと多いと思う。（6%以上あると思う）

（委員） 別所線電車の存続を希望する人は多いと思うが、利用状況が少ないので、「乗って残す」運動が課題である。

（委員） 塩田地域に、上田高校の中高一貫校を誘致できないものか検討する必要がある。

(3) 第 2 期地域協議会総括（実績、成果、課題及び次期協議会への引継ぎ事項等）

（委員） 委員を 1 期経験する中で、関係団体と協議し連携することの必要性を感じた。

（委員） 地域協議会は、塩田地域の議会だと思ってきたが、漏れている団体があると思う。当て職による委員も良いが、各自治会からの代表とすべきである。別所線電車存続に関する住民アンケートを、押し付けと感じている自治会長がいた。委員の選考方法を再考してもらいたい。（自治会連合会の中の連絡体制が整備されていない）

（委員） わがまち魅力アップ応援事業は、何でも申請すれば補助金がもらえると思われるようではいけない。住民からのボトムアップや継続性が不足していると思う。

（委員） 課題の多い第 2 期であったと思う。会長の事務引継ぎにおいては、経過や課題についてしっかりしてもらいたい。

（委員） 国の三位一体改革などにより、地域内分権を推進して地域ががんばらないと元気がなくなってくる。地域協議会は、自治会連合会と同じだと思っていたが実際は違っていた。地域住

民の代表者が集まってくる組織だと思った。介護や教育的なものは、ほとんどが人件費となってしまうので、介護や福祉に目を向けたいと思う。

(委員) 地域協議会は、自治会内で認知されていない。関係する団体の方と懇談ができてよかった。地域の課題解決のために動くことができてよかった。住民力は、素晴らしいと思った。アンケート結果の活用は、今後の課題である。

(委員) 自分は、公的機関の委員として参加したのは始めてであったが、勉強不足を感じた。PTAの会員の中には、役員を避けたいという風潮がある。地域住民が、塩田中学校に関心を持ってきているのに、PTA 会員がしっかりしていなくて反省した。

(委員) 次年度においては、ホタル水路整備を継続してもらいたい。

(委員) 地域協議会は、認知度が低いので活動や情報の発信を行なうことを希望する。

(委員) 地域の要望事項であった地域自治センターの整備事業において、具体的な整備事業のことにについて関わるのができた良かった。地域協議会の活動などについては、より多くの情報を発信する必要がある。委員選考については、再考してもらいあらゆる団体などからの選出を希望する。

(委員) 自分は当て職で出たが、地域自治センター整備事業において、太陽光発電システムが導入されることになってよかった。

(委員) 委員となったことにより、地域の内容が理解できて、地域の課題に関わるのができてよかった。今後は、違う立場で地域課題の解決のために関わって行きたい。第3期の活動に期待する。

(委員) 地域の課題の難しさを痛感した。地域自治センター整備事業など記念に残る事業に関わることができたよかった。

(委員) 地域協議会は、地に足の付いた活動が必要で、意見を出してもらい問題点を掘り下げる必要がある。生活者として必要なものは何か。安心や安全のため孤独死の人はいないか、地震や水害の心配はないかなどの議論が必要である。基本について学ぶべきであり、その道の達人に聞くことも必要である(常に学習)。世界遺産の登録は実現できなかったが、全世界の人に見てもらいたい遺産としてのレベルの違いを感じた。

(委員) 地域まちづくり方針において、塩田地域全体の看板についてこだわったが、統一性を求めるのが協議会の課題だと思った。別所線電車の駅には、観光や地域振興に結びつく看板が必要である。協議会の意見書の内容が、住民に伝わっていないので情報発信に工夫してもらいたい。

(委員) 自分の力不足を反省している。地域協議会は、地域の課題について考える機会となってよかった。協議会は、地域の課題について協議する場所なので大いなる議論に期待する。

(委員) 自分は、充実した3年半であった。「協議会だより」の発行は、不十分であったと反省しているが良い経験となった。今後は、見栄えのする「協議会だより」を発行してもらいたい。地域課題として、緊急時における住民への情報伝達の方法について検討してもらいたい。

(委員) 今期は、最高の地域協議会であった。多くの意見を出していただき、素晴らしい塩田地域となることを願っている。意見書の提出は、市全体で33件あり内塩田は5件である。意見書は、資源循環型施設についての学習会の開催、地域協議会のあり方について、塩田地域の自然環境や景観の保全について、地域自治センターの整備計画について、別所線電車存続についてなどであり、他の協議会にはない力を持っている。塩田地域から上田市や日本の発展に結び付けたいものである。観光や農業において、塩田発の施策を発信して行きたい。幼稚園から大学までそろっている地の利を活かして、学習機関の連携など地域の活性化に結びつけた取り組みも必要である。遊休農地の活用のほか、別所線電車存続の住民アンケートを活用しての地域振興についても検討してもらいたい。

(4) その他

「教育委員会事務局体制の改革」提言についての報告

4 その他

5 閉会

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。